

2024年11月発行 文責 にじいろこどもクリニック 院長 相澤知美

こんにちは。今年も残すところ、1カ月と少しになりました。先日雪も降り、寒暖差で体調を崩す方も多いのではないのでしょうか。最近の風邪は、大きい子や親御さん達もかかっています。

インフルエンザが一部の学校で出始めました。周囲の流行状況から抗原検査が必要な場合は、少なくとも発熱後8時間以上経過してからの検査をお勧めします。発熱直後は抗原量が少なく、陰性とする場合があります。鼻腔の抗原検査は痛みを伴い、恐怖を感じている子供達も多いと思いますので、出来る限り1回の検査にしたいと思います。

<只今流行している感染症>

マイコプラズマ

発熱が無く咳のみの方から、肺炎で高熱が長引いている方まで様々な重症度の方がいらっしゃいます。抗原検査キットが不足しています。

インフルエンザ

一部の学校で出始めたところです。

その他

溶連菌、手足口病、胃腸炎 等

12月の予定

12月13日 (金)

午後は15:00～診療を開始します

12月21日 (土)

都合により休診です

年末年始のお休み

12月29日 (日)～1月3日 (金)

1月4日 (土)より通常診療です

育児は大変というお話



息子がまだ小さい頃、「育児は一生だ、人間の子供ほど手がかかるものはない、チャーミーはおりこうさんだね」と息子の面倒を見てくれていた母に言われたことがある。チャーミーとは、実家で飼っていた猫だが、飼って数日でトイレを覚えて以後失敗無し、お留守番も上手でおりこうさんだった。犬も非常に優秀だろうし、多くの動物は生まれてすぐ立ち上がり歩く。人間は脳が発達しているのにも関わらず、1年から1年半かけて歩き、自立するまで約20年ほどかかる。何故なのか、非常に興味深い。息子が大きくなっても手がかかるところを見ると、母が言っていた「育児は一生」とは、娘の私の育児が終わっていないという意味だったのではないかと思い、育児を手伝ってくれた母には感謝である。

親御さんから育児に関する質問を受けることがあるが、医学的なこととは違って答えがないことも多い。自分も悩みながら、「小児科医」ということが逆にプレッシャーとなりながら、小学校低学年くらいまでは苦戦した方だと思う。悩むと本を買い、本棚には育児に関する本がずらっと並び、離乳食、幼児食、弁当作り、トイレトレーニング、指しゃぶり、語りかけ育児、怒らない育児、男の子のしつけ、教育評論家の尾木ママ（若いお母さんはわからないかも）の本、「ぐりとぐら」の作者の中川李枝子さんの本など沢山読んだ。絵本作家の中川李枝子さんは、もともとは保育士さんで、「こどもはみんな問題児」（新潮社）という本を書いており、その中で、「1日の中で一緒にいない時間の方が長くても親子の信頼関係は揺るがない」「子供は親の苦勞を承知しているし、子育てはやりがいのある苦勞だ」「自分の体を後回しにしているお母さんが多いから健康診断を受けなさい」など保育士さん目線からの的確な意見に救われた記憶がある。結局、子供が成長することで、その時の最大の悩みは解決し、そしてまた次の悩みがやってきてを繰り返すので、育児は大変である。仕事の合間に病院へ子供を連れてくることだけでもすごい！

と私は思っているし、自分の育児に自信をもって過ごして良いのだと思う。

困ったことがあれば、私や看護師さん、助産師さん（不定期ですがいます）にご相談下さい。

今回は忙しくコラムみたいになってしまいました。次回は医学的なことを書きたいと思います。

